

ラジオママネット ～ママトーク～

第 11 回放送の概要（2018 年 2 月 24 日）

本日のテーマ：「入園、入学の不安」

前回の放送と同じようにフリートークで番組がはじまりました。

今日のトークメンバーは 2 人です。

まきちゃん：子どもは小 6 女子、小 4 男子、小 1 女子です。昨日は年度最後の授業参観があり、参観日は 1 時間目から 5 時間目まで 1 日中見れる時もあるが、昨日は 5 時間目だけ公開だった。4 年生は 10 歳で 2 分の一成人式で、今までの 10 年、これからの 10 年をしゃべり、歌うのをがっつり見たいと思った。また 6 年生も最後の授業参観で、1 年生は自分の得意なことを発表する準備をしていた。2 学期に 2 分の一成人式は日を変える話があったが叶わなかった。結局 1, 6 年生は行けなかった。45 分授業で 1 人 15 分はきつい。

あやちゃん：30 代、子どもは魔女の宅急便にどハマりしている 2 歳女子。トトロ、ポニョなどジブリが目茶好きで、今はキキがブームでほうきの代わりに、手をお尻に持っていき飛んでいる。A3 が入る縦長の紙袋を丸めたものにまたがっている。ハロウィンで買ったほうきが荷物の奥に置かれているはずなので、今度取り出してみる。

今日のテーマについて、あやちゃんは 3 歳入園で、1 年前ならし（プレ）幼稚園に入るために、1 月に入園説明会に並んだ。これは本入園するためには、プレに入園し優先枠に入っておく必要があるため。これが今の幼稚園事情で、少子化が言われているが保育園が足りず、幼稚園も優先枠に入っておく必要があるのはどういうことか。幼稚園は近く引っ越すところに一番近い。

まきちゃんの子どもが入園したのは、神戸市立の 2 年保育で、その 1 年前にさくらんぼクラブがあり、入園半年前に始まり月 1 回であった。親から離れる練習である。1 番目の子どもの時は、定員を超える希望者があると抽選という話があったが、実際は定員割れをしていた。今は園児がどんどん減っている。増えている幼稚園もあり地域格差がある。自分達が子どもの頃に出来た新興住宅地は、子どもが育ち、核家族が多く、その子どもが帰って来て一緒に住むことがなければ年寄の街になり、そういう所は保育園も幼稚園も定員割れになる。次の新興住宅地は若い人ばかりになる。

神戸新聞によれば元町がそのような状況にあるようだ。震災後人口は減ったがその後タワーマンションがバーッと建ち、小学校や幼稚園は統合してしまったのでなくなっている。元町周辺には児童館や赤ちゃん連れで行ける場所がないので、元町商店街がそのような施設を考えようとしている。去年神戸市が条例で、中心部にはあまりマンションを建てられないようになった。今後は人口が増えていかないので将来は同じ状況になり、繰り返しになる。

あやちゃんは保育園に預けるという条件を満たせない。預けられればもう少し活動したい。仕事なのかボランティアなのかあいまいな状況にある。保育所が足りなくて困っている人もいるので、自分のような立場のものが無理に預けなくてもいい、自分で見れなくはないので選択肢は幼稚園かなと思っている。そうすると幼稚園は歩いて行けるところになる。勉強が出来る幼稚園というのがあるが、今後二人目が出来ることも考えれば、一番は通わせやすいところと思う。じっとしている子どもではないので、元気で遊ばせてやりたいと思うので、静の動作より動の動作が好きなので、自由にさせてくれる幼稚園が向いている。

勉強系の幼稚園は、小学校の時間割のように、1時間目は園庭の周りを走っている。まきちゃんは先輩ママに幼稚園の選び方を聞いたところ、自分で幼稚園に行き様子を見ると一目瞭然と言われた。実際3か所見に行った。勉強系の幼稚園に朝行くと皆走っており、遅れてきた子どもが園庭の花を見て、先生きれいねと言うと、今は見る時ではなく走る時でしょと言っていた。衝撃を受けた。次の時間はチャイムが鳴ると、先生がカードの文字を次々読み上げていき、チャイムが鳴り休憩に入ると、テラスで男の子が疲れたように寝そべっていた。園庭のすべり台やジャングルジムのついた遊具の橋の上で、7～8人の子どもがすずめのようにじーっと立っていた。次は体育館で2年保育の子どもと3年保育の子ども全員がゆらゆら運動をしていた。始めに2年保育の子が演技した後、3年保育の子が始まる前に先生が、2年の子に負けたらあかんでと言っていた。見ておれなくなり途中で退席した。楽器演奏も競っていた。音楽会が控えているからといって休み時間も練習させていた。

あやちゃんが行かそうと思っている幼稚園の他に地域で有名な勉強幼稚園がある。その幼稚園に行った子どもの親に聞くと、小学3年生くらいになると揃ってしまうと言っていた。何をしなさいと言われない休み時間や空いた時間は、子どもが自分でどうやって遊ぶか、何を使って遊ぶかは想像力が必要になる。すずめのように立っていた子どもは、このようにして遊びなさいと言われないと遊べない子どものように思った。まきちゃんが行かせた幼稚園の子どもは、遊び方がとても上手で、工事現場と言いながらドロドロになって繋ぎ合わせた雨どいを作り、トンネルを掘り、トラックを持ってきて遊んでいた。白服は泥が落ちないので黒い服を着せていた。泥のついた服は乾かしてから洗ったほうが汚れは落ちる。海で足に砂がついた時は歩いているうちにとれるのと同じ。

その幼稚園は水曜日以外は毎日お弁当で、9時に送り、2時に帰ってくる。延長保育はある。今は幼稚園スタイルと保育園スタイルを合体した認可子ども園があり、早く帰る子どもと遅く帰る子どもがあり、幼稚園扱いの子どもはお弁当を食べて帰り、保育園扱いの子どもは5時までで給食を食べる。保育に預けているお母さんの話では、子どもから、〇〇ちゃんは毎日お弁当だし早く帰るがなぜ僕は早く帰れないのと聞かれる。お母さんも2時に迎えにきたら、と言われるそうです。今日は2時に来てねと言われるので目茶胸が痛むそうです。

幼稚園を家から近いからと選ぶのは自分の都合で、あやちゃんは園を見に行っていないので子ども目線では見ていなかったと気付かされた。他の子どもと同じように2時に帰れない子どもの気持ちを思うと目茶つらい。その場合母親はごめんね、迎えに行けないのと言い、子どもは仕方がないと我慢が出てく

る。お母さんの働き方が自由になった結果なのか。子どもがある程度大きくなると表面的には理解できるようになるが、幼稚園、保育園の子どもはそこは難しい。いやや行きたくないというきっかけになるかもしれない。表面上はわからなくても、内心では寂しく思っているのかもしれない。2時に帰れないことについて、子どもが何気なく言ったのでわかったことである。元は保育園は厚労省、幼稚園は文科省の管轄であったのでそもそもの主旨が違う。先生は目の前で、寂しそうに帰る子を見ている子どもを、どう思っているのか。その子に1対1で向き合い、その子どもにどこまで向き合い、寄り添える時間を先生がもててるのか。

以上